

① 3ペーシ" 上から9行目

また、この原稿をコンピュータに入力するに際して、一考をお願いし、この本の上梓に関してお布施をいたたきました末釜明美様にも深く感謝申し上げます。

② anibbisam : a + nibbisam → anibbisant (a.m.sg.nom.)

[得子にたとえ、見出さずして]

8ペーシ" 下から9行目

③ 9ペーシ" 下から9行目

見出さずしてです。

④ 14ペーシ" 上から3行目

⇒ (語根 sikkh + 縁語 a = 語基 sikkha) + 活用語尾 ti

⑤ 18ペーシ" 上から4行目から6行目にかけて、ふり仮名

たいおしやく 帶數釈	えいしやく 依主釈	きりしやく 相違釈	りんしやく 隣近釈	うせしやく 有財釈
---------------	--------------	--------------	--------------	--------------

⑥ 34ペーシ" 上から6行目から7行目

Yadidam : Yam + idam の連声 (文法書 P.61 ⑤母音の前のmはd又はmに転ず)
 ところで"はdに転じています

Yam : Ya (関係代名詞) (n.sg.nom.) [所のもの]

idam : imam (指示代名詞) (n.sg.nom.) = 我

⑦ 58ペーシ" 下から9行目

anibbisam : a + nibbisam → anibbisant (a.m.sg.nom.) [得子にたとえ、見出さずして]

⑧ 59ペーシ" 下から12行目

phāsukā : phāsukā (f.pl.nom.) [垂木] bhaggā : bhaggā (a.f.pl.nom.) [破壊]

⑨ 70へ-2"追加 (71へ-2"と存す)

vāpi : vā + api の連声

vā (adv.) [あつた] api (adv. conj.) [其れ, といふも]

yadatthi : yam + atthi の連声

yam (関係代名詞: n. sg. nom.) [所のもの]

atthi (v. 1. sg.) [あつ]

Kiñci : Kaci (疑問代名詞 n. sg. nom) [何か, 何れ]

yadatthi kiñci : [何れあつて]

catūhapāyehi : catūhi + apāyehi の連声

catūhi : catu (num. m. pl. abl.) [四つ]

apāyehi : apāya (m. pl. abl.) [悪趣]

ca : ca (conj.) [と, 且]

vippamutto : vippamutta (a. m. sg. nom.) [脱した, 自由に存た]

cha : cha (num. 語基) [六]

cābhiṭṭhānāni : ca + abhiṭṭhānāni の連声

ca : ca (conj.) [と, 且]

abhiṭṭhānāni : abhiṭṭhāna (n. pl. acc.) [極罪]

abhabbo : a + bhabbo → abhabba (a. m. sg. nom.) [不可能の]

kātum : karoti (v. inf.) [為すことが(出来る), 為すべし]

⑩ 71へ-2" 下から6行目と7行目の間に1行追加

so : so (pron. m. sg. nom.) [彼]

⑪ 71へ-2" 下から6行目

tassa : so (pron. m. sg. dat.) [其れ]

⑫ 80へ-2" 下から8行目

santindriyo : santa + indriyo の2110321 → santindriya (a. m. sg. nom.) [感覚器官が静まった人]

81 verso ⑬ 下から14行目

kiñci = kaci (疑問代名詞 m.sg.nom.) [何か] yena:ya (関係代名詞 m.sg.inst.)

⑭ 84 verso 下から5行目
añña (a.pron. 語基) [他の]

⑮ 131 verso 下から10行目
Bhagavantam : Bhagavant (m.sg.acc) [世尊] ⇒ 世尊を

⑯ 148 verso 下から21行目
他の人々は (pare) 離間の言葉を話す者たちとして (pisunāvācā)
148 verso 下から9行目
他の人々は (pare) 粗暴な言葉を話す者たちとして (phanusāvācā)

⑰ 149 verso 下から8行目
他の人々は (pare) 貪欲あるものたちとして (abhijjhālū)
149 verso 下から6行目
貪欲のないものたちとして (anabhijjhālū)

⑱ 150 verso 下から11行目
瞋恚なき心を持ったものたちとして (abyāpannacittā)
150 verso 下から13行目
他の人々は (pare) 瞋恚ある心を持ったものたちとして (byāpannacittā)

⑲ 157 verso 下から17行目
疑を脱した者たちとして (tinnavicikicchā)

⑳ 169 verso 全部不要

㉑ 172 verso 下から11行目
熱心に (ātappam) [為すべきである]。
下から9行目

知ることか出来たことか (jañña) [なれも知ることか出来ない]。

㉒ 175 verso 上から5行目
生いて滅びる性質を持つ 諸行はまさに無常である。

㉓ 179 verso 下から10行目
人々の上首である (janapāmokkho) コンダニヤ (橋 陳如) 仏陀 (Kondañño)

②4 182 verso "上" 8行目

sāro : sāra (m. sg. nom.) [真実]

②5 189 verso "上" 5行目

一切の不幸・= 痛苦を避けるためよすに。

②6 194 verso "上" 8行目、9行目、10行目

ガナサラの (ghanasāra) 燃えたる (padittena) 火光明に於て (dipena)

ghanasārappadittena : ghanasāra + (P) + padittena

ghanasāra (語基) [ガナサラ: お寺の火光明のためのパッドとガナは火然え続ける油状のもの]

②7 199 verso "下" 2行目

pūjayāmi : pūjayati = pūjeti (v. Pr. 1. sg.) [供養おす, 礼拝おす]

②8 202 verso "上" 3行目

Anukampam upādāya paṭigamhātu muttamam.

②9 203 verso "下" 4行目

narā sabham : nara + ā sabham

③0 206 verso "上" 10行目 & 11行目

かいて (ca) に= まで (ettāvata), 私たが (amhehi)

積んだ (sambhatam) 功德の (puñña) 成就を (sampadam)

一切の (sabbe) 天たがは (devā) 随喜して下さいますよすに (anumodantu)。

一切の (sabba) 幸運の (sampatti) 成就のため (siddhiyā)。

③1 208 verso "上" 7行目

この (idam) 私の (me) [功德が 幸せをもたすものとして] ありますよすに (hotu)。

③2 72 verso "下" 13行目、16行目

11032, 11033 テカ-を 11032, 11033 テカ-に訂正。

③3 127 verso "下" 13行目

sati (f. → 有財釈 m. sg. gen.) [気づき, 念] に訂正。

③② 72ページ下から13行目, 16行目

Πορρῆταξῶν τῆς κῆρας Πορρῆταξῶν τῆς κῆρας 12訂正。

③③ 127ページ下から13行目

Sati (f. 有財親 m. sg. gen.) [氣つき, 念.] 12訂正。

③④ 118ページ上から8行目

死の (maccuno) 力が (vasam) 近づく (āgamma),

を

死の (maccuno) 力に (vasam) 接近に迫られて (āgamma),

12訂正。

③⑤ 118ページ下から7行目

vasam = vasam : vasa (n. sg. nom.) 力

を

vasam = vasam : vasa (m. sg. acc.) 力

12訂正。